

(第3種郵便物認可)

市民タイムス

# 松本秀峰 科学の甲子園へ 県内9校・22チームを代表

高校生が科学の知識や技能を学校対抗で競う来春の「科学の甲子園・全国大会」に向けて、出場する県代表を決める「第8回信州サイエンステクノロジーコンテスト」がこのほど、松本市旭3の信州大学松本キャンパスで開かれた。9校から22チーム・計132人が出場し、松本秀峰中等教育学校のAチームが総合優勝を決めて全国大会への切符を勝ち取った。

各チーム6人で構成し、筆記競技と実技競技にチームプレーで挑んだ。筆記競技は物理・化学・生物・地学の理科4科目と数学、情報があり、各科目から2問ずつ計12問が出題された。実技競技は事前に課題が公表されていた総合分野と当日発表の装置制作や実験に



表の物理分野があり、生徒たちは3人ずつに分かれて課題解決のために装置制作や実験に

取り組んだ。大会は科学分野での人材育成を目指して開かれ、理数科を設置している県内の高校の校長や大学の学長などをつくる「信州サイエンスキャンプ事業推進委員会」が主催する。事務局がある県教育委員会教学指導課の主任指導主事・小口雄策さん(51)は「学校間の生徒の交流を通して切磋琢磨してほしい」と願っていた。

開会式でコンテストについて説明を受ける生徒たち

(北條彩乃)

全国大会は来年3月15〜18日にさいたま市